

百折不撓

題字揮毫 岐阜県知事 古田 肇 (昭和41年卒)



表紙絵

「金華山と長良川」

昭和41年卒

酒井 和行 (江戸川大学教授)

中学と岐阜高校時代の6年間、村瀬徹先生のアトリエに通っていました。そして時々、近くの長良川にお供して絵を描きました。その後、岐阜に帰るたびに長良川の岸辺を歩きスケッチを重ねています。今回その一枚を『会報』に載せていただき光栄です。金華山の勇姿は、いつも私たちに「頑張れよ」と語りかけてくれるような気がしております。

芸大卒業後はNHKでディレクター等をし、岐阜放送局長として3年間勤務、杉山幹夫様はじめ岐阜高校の諸先輩にご指導ご支援をいただいて、僅かながら岐阜のため尽力することができました。母校で話をする機会をいただいたことも忘れられない思い出です。

現在は千葉県流山市の江戸川大学で、「表象文化論」「コンピュータ・グラフィックス」等を教えています。少し回り道しましたが教員になる夢を果たすことができました。もうしばらく大学で働き、時々岐阜に帰って金華山と長良川を描き続けたいと思っています。



新校舎パース／正面玄関を望む

● ● もくじ ● ●

創立140周年に向けて	同窓会会長 岡本 太一	2
「同窓会総会」をお祝いして	校長 田村 弘司	3
私たちにも「CHANGE」のとき	運営委員長 水谷 邦照	4
総会次第		5
第2号議案 平成20年度決算報告		6
第4号議案 平成21年度予算案		7
平成20年度同窓会総会決算書		8
平成21年度同窓会総会予算案		9
岐阜県立岐阜高等学校同窓会役員		10
岐阜県立岐阜高等学校同窓会規約		11
座談会 「知事と一緒に語る 岐高の昨日・今日・明日」		12
恩師からのメッセージ		20
同窓会だより		26
同窓生寄稿 あのこところ		28
「岐高新聞」から(卒業生に贈る言葉 〔学校長、担任から〕)		66
「岐高だより」から(部活動だより)		69
お宝拝見!		71
平成21年度大学合格者数		73
アトラクションの紹介		74
平成21年度会報協賛広告		75
事務局からのお願い		232
岐阜県民の歌		233
校歌		234
平成21年度総会出席者名簿		236
平成21年度運営委員会委員名簿		240
広告・協賛の御礼／編集後記		241



創立140周年に向けて

岐阜県立岐阜高等学校同窓会

会長 岡本 太一

平成二一年度の岐阜高等学校同窓会総会に沢山の老若男女の同窓生が渾然一体となって賑ぎにぎしく出席頂き、心より嬉んでおります。例年通り、古田知事、森、細江、松永、各市長も顔を揃えて出席され、藍水くらぶ、関東の首都圏同窓会、関西の同窓会を始めとして遠方より足を運んで下さった方々に、敬意と感謝を表します。

昨年で創立三三五年を迎えた母校は、次なる二四〇周年に向けて着々と歩みを進めております。県下の高校改築の殿(しんがり)として、旧華陽高校舎のほぼ新築に等しい大改装が終了し、既に供用されています。

次に西校舎の新築が間もなく開始され、平成二二年度、二三年度に校舎の新築が完了し、二三年度より体育館が現在の駐車場に堂々たる姿を現します。所謂下駄履きですので、現在の体育館武道館の敷地分だけグラウンドが広くなります。グラウンドの整地整備の終了で五年間の岐阜高校校舎

の全面改築の千秋楽となる筈です。完成の暁には岐阜県を代表し東海地方屈指の未来志向の快適な学びの場が出現する筈です。

財政難の中で県には格別の配慮を頂いていますが、未だ未だ設備等の投資資金が不足しております。我々を育ててくれた母校の為に、同窓生の極力沢山の援助を改め、お願いする次第です。世界的な不況で皆様も何かと困難な状況にあると推察しますが、それを承知で敢えてお願いします。

所で、岐阜高校の内容は誠に誇らしい充実した歩みを進めております。去る二月一日の卒業式に同窓会入会式を併せてやって頂き卒業生の未来を見すえた充実感に満ち満ちた三五〇余名の眼差しに感動しました。所謂、高校野球を志向し、野球部員が二〇〇名を超える高校がある様に、主に私立で大学進学を専門とする高校が全国各地に散在します。

こういった私立の進学専門高校を考えないと、岐阜高校の進路の成績は公立高校の中で全国で

一番(若しくは二番)の年次も時にはある)という見事な結果を出し続けております。田村弘司校長先生以下の大変な指導力と実行力で、伝統であります文武両道(この場合は武は部、クラブ活動)を堅持して頂いております。トータル・パーソンの育成の実践であります。私立大学に推薦入学制度があり、その資格として必ず「高校生活を全人格的に全うした者」の文言がありますが、昨今の岐阜卒業生三五〇余名に総てこの言葉が合致します。

勿論日本の将来を担う人材を沢山輩出していることとなります。同窓生としてこんな嬉しい誇らしいことはありません。どうかこの素晴らしい岐阜高の同窓会の活動を是非ご支持、ご支援下さい。

尚、本年度の運営は水谷邦照委員長のもと、昭和四一、五一、六一年度の卒業生の尽力の賜物であり、立派な総会が出来ましたことを深謝し、併せ、当該年度の方々の友情がこれを契機に更に深まることを祈念します。



「同窓会総会」をお祝いして

岐阜県立岐阜高等学校

校長 田村 弘司

平成二十一年度の岐阜高校同窓会総会が岡本太一会長はじめ役員・運営委員の皆様の尽力で、盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。また、平素より本校教育に格別のご理解とご支援を賜り感謝申し上げます。

三月一日には「卒業式」に引き続き、岡本会長にご出席いただき「同窓会入会式」も行っていただきました。新入会員へのご指導・ご支援をよろしくお願いたします。

さて、学校の状況ですが、本校は今年で創立百三十六年目を迎え、四月八日には三百六十名（九学級）の新入生が入学しました。それから一カ月余が経ち、現役岐阜高生は、「百折不撓・自彊不息」の校訓の下、文武両道をモットーに輝かしい歴史と伝統を受け継ぎながら、日々勉学に部活動にと頑張っています。また、今春の進路結果は、東京大十七名、京大三十名、大阪大二十名、名古屋大三十九名、

岐阜大二十九名、早稲田大八十五名、慶応大四十五名、また国立大医学部医学科には三十三名など、よく健闘してくれました。部活動関係では、運動系・文化系ともに限られた時間を有効活用し成果をあげています。運動系では、硬式野球部、陸上部、テニス部、サッカー部、水泳部等、文化系では、音楽部、書道部、美術部、自然科学部、吹奏楽部、文芸部等々、多くの部活動が活発で、各種大会・コンクールで様々な賞を受賞するなど県内外で活躍してくれました。

その中で、音楽部は平成二十年「全日本合唱コンクール」で六年連続の金賞、香川県知事賞受賞、また、陸上部女子のインターハイ出場、吹奏楽部の東海大会出場、文芸部や書道部の全国総合文化祭出場、自然科学部の全国発表、そしてサッカー部は秋の県新人戦においてベスト4の活躍と、文武両道をモットーに、S・I（スクールアイデンティティ）として策定した「学ぶ・

考える・思つ」の理想をめざし、校歌の一節「百折不撓とめて止まず」の精神で頑張ってください。今年度も「知・徳・体」バランスのとれた人材、いわゆる「トータルパーソンの育成」をめざして全職員が一致協力して頑張っていきたいと思えます。

最後になりましたが、校舎改築関係では、特別教室棟が完成、今年度は管理棟・教室棟A・B・Cの建設が始まっています。二十二年秋供用開始、二十三年秋体育館・武道場が供用開始）今後とも、同窓会の皆様には母校岐高への暖かいご支援・ご協力をお願いいたします。また、本年度の総会をお世話いただきます水谷邦照運営委員長をはじめ、当番幹事の昭和四十一年、五十一年、六十二年卒業の皆様の献身的なご尽力に敬意を表しますとともに、同窓会会員の皆様のご多幸と益々のご発展を心からお祈り申し上げます。



私たちにも“CHANGE”のとき

平成21年度同窓会総会運営委員会

委員長 水谷 邦照

本日は、多くの同窓生の皆様にご出席いただき、心より御礼申し上げます。

時の経つのは早いもので、前回の総会で運営委員を引き受けてから、もう一年です。私たちにとっては他聞にもれず、「あー」といつの間でした。

一つの大きな会合を毎年交替して運営するというのは、何かとやっかいな話です。たかが一つのボランティア活動ですが、“せれど”責任の重いボランティア活動です。

●
 本年は、昭和四一年、五一年、六一年の卒業学年が運営委員として、同窓会の総会・懇親会の準備と運営を担当しています。昭和四一年の卒業生は、満六一年の卒業生は、あとの五一年、六一年卒の学年においては、まさしく働き盛りです。最近は、六〇歳で定年を迎えることがあっても、その後も働いたり活動す

る場所を得る場合が多く、いわゆる「暇人」は見当たらなくなりました。今は、そんなご時世です。

●
 この会報誌に掲載する広告の協賛勧誘は、並大抵ではありませんでした。

●
 周知のように、米国で起きたサブプライムローン問題に端を発した金融危機は、日本でも昨年の秋ごろから未曾有の景気悪化をもたらしました。そのような極めて厳しい現実の中、広告担当委員が経験した多くの労苦は、筆舌に尽くし難いものがあります。

●
 様々な苦難を乗り越えて終結できましたのは、幸いにも多くの広告協賛を申し出ていただいた方々の、ご理解とご協力があったればこそです。この紙面を借りて、厚く御礼申し上げます。

●
 毎回のごとく、総会の運営を

●
 一年間だけ体験してみるの、あながち悪い事ではありません。けれども、もうそろそろ、まずまずの努力があれば総会運営の準備ができる、というやり方を開発したいものです。どうやら、私たちにも“CHANGE”(変革)が求められています。

●
 最後になりましたが、本日出席された皆様におかれましては、親しく交友を深められ、楽しい気分でお過ごしいただけることを願っております。

●
 また来年も、元気な姿でお越しください。



岐阜県立岐阜高等学校同窓会総会

平成21年6月21日(日) 会場：岐阜グランドホテル

[次第]

1. 総会 (11:00~11:40)

開会の辞

黙祷 (物故者の冥福を祈る)

同窓会長挨拶 同窓会長 岡本 太一

学校長挨拶 岐阜高校校長 田村 弘司 様

議案審議 第1号議案 平成20年度事業報告について

第2号議案 平成20年度決算報告ならびに監査報告

第3号議案 平成21年度事業計画案について

第4号議案 平成21年度予算案について

御祝辞 岐阜県知事 古田 肇 様

閉会の辞

< 休 憩 >

2. アルゼンチンタンゴの魅力 (12:00~12:15)

バンドネオン 春日井 邦夫 (昭和41年卒)

バイオリン 岩切 陽子

3. 懇親会 (12:15~14:00)

開会のことば 平成21年度同窓会運営委員会 委員長 水谷 邦照

乾杯 在京(首都圏)岐阜高校同窓会 会長 宮本悠美子

藍水くらぶ 会長 村瀬喜代子

平成21年度運営委員会 運営委員紹介

委員長 小笠原 文雄 (昭和42年卒)

副委員長 松波 和寿 (昭和52年卒)

副委員長 加藤 和洋 (昭和62年卒)

校歌斉唱

閉会のことば 平成21年度同窓会運営委員会 副委員長 平田 直彦

以上

[議案]

第1号議案	第3号議案
平成20年度事業報告	平成21年度事業計画案
第1回役員会 5月2日	第1回役員会 4月30日
同窓会総会 6月15日	同窓会総会 6月21日
在京同窓会 7月13日	在京同窓会 6月28日
第2回役員会 9月17日	第2回役員会 9月16日
藍水くらぶ総会 10月3日	藍水くらぶ総会 10月2日
第3回役員会 2月3日	第3回役員会 2月(予定)

第2号議案

平成20年度岐阜県立岐阜高等学校同窓会 決算報告

自 平成20年4月1日
至 平成21年3月31日

【一般会計】

収入の部

科目	予算	決算	備考
前年度繰越金	3,438,484	3,438,484	
同窓会入会費	1,083,000	1,077,000	※ 3,000 × 359 名
受取利息	5,500	4,321	普通預金利息
計	4,526,984	4,519,805	

支出の部

役員会費	50,000	41,660	3回
慶弔費	50,000	0	
祝儀	250,000	120,000	在京同窓会、藍水クラブ等
總會運営費	300,000	300,000	平成21年度總會運営委員会補助金
交通費	100,000	90,000	在京同窓会出席者旅費
通信費	20,000	4,090	切手、郵送料
会員章	250,000	153,793	卒業記念品 359名分
口座管理料	3,150	0	野村証券口座管理料
手数料	-	5,145	振込手数料
ホームページ作成代金	200,000	0	
eメールの管理及びメンテナンス	120,000	0	
ホームページ関連経費	-	120,330	管理料、ドメイン利用料等
同窓会関係資料移動費	200,000	154,822	校舎改築に伴う関係資料移動・処分等
次年度繰越金	2,983,834	3,529,965	
計	4,526,984	4,519,805	

【特別会計】

収入の部

科目	予算	決算	備考
前年度繰越金	3,120,097	3,120,097	普通預金
十六銀行株式配当金	569,968	530,074	株式保有数81,424株
受取利息	4,900	4,150	普通預金利息
計	3,694,965	3,654,321	

支出の部

次年度繰越金	3,694,965	3,654,321	
計	3,694,965	3,654,321	

【總會特別会計】

収入の部

科目	予算	決算	備考
前年度繰越金	11,619,406	11,619,406	
平成20年度總會運営費繰入金	1,200,000	1,200,000	運営費貸出金の返済金
同窓会總會余剰金	-	1,377,192	平成20年9月受け入れ
受取利息	18,500	16,406	普通預金利息
計	12,837,906	14,213,004	

支出の部

平成21年度總會運営費繰出金	1,200,000	1,200,000	運営費一時貸出金
手数料	-	525	振込手数料
次年度繰越金	11,637,906	13,012,479	
計	12,837,906	14,213,004	

上記の通りご報告申し上げます。

平成21年4月22日

平成20年度岐阜高等学校同窓会

会計 寺島 健
会計 杉山 正裕

上記について関係書類を監査の結果、適正に処理されていたことを報告いたします。

平成21年4月22日

平成20年度岐阜高等学校同窓会

監査 木方伸一郎
監査 神谷真弓子
監査 佐伯 淑子

第4号議案

平成21年度岐阜県立岐阜高等学校同窓会 予算案

自 平成21年 4月 1日

至 平成22年 3月31日

【一般会計】

収入の部

科 目	予 算	備 考
前年度繰越金	3,529,965	
同窓会入会費	1,083,000	# 3,000 × 361 名
受取利息	5,500	普通預金利息
雑収入	0	
計	4,618,465	

支出の部

役員会費	50,000	
慶弔費	50,000	
祝儀、餞別	250,000	在京同窓会、藍水クラブ等
總會運営費	300,000	平成22年度總會運営委員会補助金
旅費	100,000	在京同窓会出席者旅費
通信費	20,000	切手、ハガキ、送料等
卒業記念品	250,000	会員証
手数料	10,000	振込手数料
ホームページ関連経費	300,000	管理料、ドメイン利用料等
同窓会資料移動・処分費	200,000	校舎改築に伴う関係資料移動・処分等
次年度繰越金	3,088,465	
計	4,618,465	

【特別会計】

収入の部

科 目	予 算	備 考
前年度繰越金	3,654,321	
十六銀行株式配当金	530,074	株式保有数81,424株
受取利息	4,900	普通預金利息
計	4,189,295	

支出の部

次年度繰越金	4,189,295	
計	4,189,295	

【總會特別会計】

収入の部

科 目	予 算	備 考
前年度繰越金	13,012,479	
平成21年度總會運営費繰入金	1,200,000	運営費貸出金の返済金
受取利息	18,500	普通預金利息
計	14,230,979	

支出の部

平成22年度總會運営費繰出金	1,200,000	運営費一時貸出金
次年度繰越金	13,030,979	
計	14,230,979	

平成20年度 岐阜県立岐阜高等学校同窓会総会決算書

自 平成19年9月2日
至 平成20年9月1日

1. 収入の部

(単位:円)

科目	平成20年度		平成19年度		備考
	(予算)	(実績)	(予算)	(実績)	
同窓会預り金	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	特別会計より運営資金として
同窓会受入金	300,000	300,000	300,000	300,000	一般会計より總會費
会費	5,360,000	5,272,000	4,800,000	5,326,000	8,000×659名
広告料	7,200,000	8,280,000	5,000,000	8,570,000	
祝儀		70,000		60,000	
受取利息		5,474		5,802	
記念切手		94,000			
合計	14,060,000	15,221,474	11,300,000	15,461,802	

2. 支出の部

(単位:円)

科目	平成20年度		平成19年度		備考	
	(予算)	(実績)	(予算)	(実績)		
總會費	懇親会費	6,500,000	6,360,338	4,800,000	6,490,289	ホテル飲食費、会場設営
	謝礼	400,000	220,000	300,000	320,000	笛・小鼓、司会者等謝礼
印刷費	3,000,000	3,113,623	3,500,000	2,811,606	会報、案内など(サンメッセ)	
通信費	500,000	445,115	220,000	470,008	案内状発送、広告依頼状等	
会議費	500,000	399,894	300,000	321,548	各部会打合せ	
事務所費	300,000	300,000	200,000	300,000	事務所借上げ費など	
事務費	350,000	208,380	200,000	353,418	コピー、文具代ほか	
振込手数料	100,000	82,650	70,000	71,945	会費、経費等の振込手数料	
反省会費	500,000	647,181	300,000	841,400	反省会 次期引継会	
活動費	300,000	317,640	100,000	300,000		
預り金返還	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000		
会費返金		141,000		56,000	8000円×17名、5000円×1名	
広告費返還		180,000		0		
雑費	210,000	228,461	50,000	116,590	切手制作費他	
剰余金	200,000	1,377,192	60,000	1,808,998	總會特別会計へ寄託	
合計	14,060,000	15,221,474	11,300,000	15,461,802		

上記の通り、ご報告申し上げます。

平成20年9月5日

運営委員長

森川 幸江



財務部長

見田村勝信



監査

所 直好



監査

青木 茂



上記について監査の結果、適正に処理されていることをご報告します。

平成20年9月5日

平成21年度 岐阜県立岐阜高等学校同窓会総会予算(案)

自 平成20年 9月 1日
至 平成21年 8月31日

1. 収入の部

(単位：円)

科目名	平成21年度	平成20年度		備 考
	(予算)	(予算)	(実績)	
同窓会預り金	1,200,000	1,200,000	1,200,000	特別会計より運営資金として
同窓会受入金	300,000	300,000	300,000	一般会計より総会費
会 費	5,600,000	5,360,000	5,272,000	8,000x700名
広告料収入	7,500,000	7,200,000	8,280,000	
祝 儀			70,000	
受 取 利 息			5,474	
記 念 切 手			94,000	
合 計	14,600,000	14,060,000	15,221,474	

2. 支出の部

(単位：円)

科目名	平成21年度	平成20年度		備 考	
	(予算)	(予算)	(実績)		
総会費	懇親会費	7,200,000	6,500,000	6,360,338	ホテル飲食費、会場設営費用
	謝礼金	150,000	400,000	220,000	演奏者、司会者等謝礼
印 刷 費	3,600,000	3,000,000	3,113,623	会報、案内状等	
通 信 費	650,000	500,000	445,115	案内状、広告依頼状等発送費	
会 議 費	250,000	500,000	399,894	各部会打合費	
事務所費	200,000	300,000	300,000	事務所借上げ費など	
事 務 費	300,000	350,000	208,380	コピー、文具代ほか	
振込手数料	100,000	100,000	82,650	会費、経費等の振込手数料	
反省会費	300,000	500,000	647,181	反省会、次期引継会費用	
活 動 費	300,000	300,000	317,640	担当学年分	
預り金返還	1,200,000	1,200,000	1,200,000		
会費返金			141,000		
広告費返還			180,000		
雑 費	70,000	210,000	228,461		
余 剰 金	280,000	200,000	1,377,192	総会特別会計へ寄託	
合 計	14,600,000	14,060,000	15,221,474		

岐阜県立岐阜高等学校同窓会役員

名 誉 顧 問	古田 肇	〒500-8570	岐阜市藪田南2-1-1	058(272)1111
顧 問	杉山 幹夫	〒501-0116	岐阜市大菅2-68-16	058(253)6161
”	野々垣 孝	〒500-8345	岐阜市菊地町4-25	058(273)6075
名 誉 会 長	田村 弘司	〒503-0837	大垣市安井町2-5-1	0584(75)0444
会 長	岡本 太一	〒500-8065	岐阜市金屋町1-9	058(265)0025
副 会 長	平塚 正之	〒504-0956	各務原市三井北町1-256	058(371)5156
” (兼会計)	寺島 健	〒501-0236	瑞穂市本田1349-8	058(327)3996
”	玉井 博祐	〒500-8009	岐阜市湊町42	058(262)0276
”	大松 利幸	〒500-6019	羽島郡岐南町みやまち4-45	058(273)2072
”	森川 幸江	〒500-8823	岐阜市江川町14	058(262)4982
”	水谷 邦照	〒502-0901	岐阜市光町3-14	058(233)3345
”	木村 容子	〒500-8104	岐阜市美園町4-32	058(266)0034
”	後藤 寿彦	〒222-0037	横浜市港北区大倉山3-10-23	045(545)6316
” (兼会計)	杉山 正裕	〒500-8863	岐阜市千手堂南町1-11-1	058(252)0488
”	杉山 文康	〒500-8864	岐阜市真砂町8-11-1-401	058(252)4310
監 査	木方伸一郎	〒502-0017	岐阜市長良雄総261-2	058(232)8304
”	神谷真弓子	〒502-0071	岐阜市長良589-1	058(295)3498
”	佐伯 淑子	〒500-8388	岐阜市今嶺2-8-26-201	058(272)8216

岐阜県立岐阜高等学校同窓会規約

- 第 1 条** (名称) 本会は岐阜県立岐阜高等学校同窓会と称する。
- 第 2 条** (目的) 本会は会員相互の親睦を図り併せて母校の発展に寄与することを以て目的とする。
- 第 3 条** (組織) 本会は次の会員を以て組織する。
- 正会員
 - 岐阜県岐阜中学校卒業生
 - 岐阜県岐阜高等女学校卒業生
 - 岐阜県岐阜第一中学校卒業生
 - 岐阜県岐阜第一高等学校卒業生
 - 岐阜県岐阜女子高等学校卒業生
 - 岐阜県立岐阜高等学校併設中学校卒業生
 - 岐阜県立岐阜高等学校卒業生
 - その他役員会の議を経て、会長の承認した者
 - 特別会員
 - 現職員・旧職員
- 第 4 条** (役員) 本会は次の役員をおく。
- | | | |
|---------|-----|-------------|
| 名誉顧問・顧問 | 若干名 | 役員会に於て推挙する。 |
| 名誉会長 | 1名 | 母校校長 |
| 会長 | 1名 | 総会に於て選出する。 |
| 副会長 | 若干名 | 総会に於て選出する。 |
| 監査 | 若干名 | 総会に於て選出する。 |
- 第 5 条** (役員の仕事) 役員の仕事は次の通りとする。
- 会長は会務を総括し、総会・役員会を招集し、その議長となる。
- 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときは代行する。
- 会長・副会長は、会務の企画並びに会計に関することを行う。
- 監査は会計を監査する。
- 顧問は会長の諮問にこたえる。
- 第 6 条** (役員の仕事) 役員の仕事は2年とする。但し再選を妨げない。
- 第 7 条** (総会) 本会の目的を達成するため、毎年1回定期総会を開く。但し必要のある場合は臨時総会を開く。
- 第 8 条** (入会金) 正会員は入会金を納入する。
- 第 9 条** (経費) 本会の経費は入会金、寄付金等を以て充てる。
- 第 10 条** (会計) 会計年度は毎年4月1日より始まり翌年3月31日で終わる。
- 第 11 条** (支部) 本会には支部を設けることができる。

座談会



知事と一緒に語る 岐高の昨日・今日・明日

春らんまんの平成二二年三月二九日、長良川河畔・川原町の「ルシノワ かわで」に昭和四一年卒である古田肇岐阜県知事をはじめ、同窓生八名と恩師二名が集合。世代を越えて「懐かしいあの頃」、「今どきの岐高生」、そして「岐高のこれから」などについて大いに語り合いました。

出席者(敬称略)

- 中村 善光 (昭和46年〜昭和51年数学教諭 元益田高校校長)
- 田村 弘司 (昭和63年〜平成4年英語教諭 平成18年〜校長)
- 古田 肇 (昭和41年卒 岐阜県知事)
- 横山 仁美 (昭和41年卒 元大垣桜高校校長)
- 若園 賀夫 (昭和51年卒 旭エンタープライズ(株)社長)
- 三宅 茜巳 (昭和51年卒 岐阜女子大学教授)
- 臼井 裕詞 (昭和61年卒 フジテレビ映画製作部プロデューサー)
- 箕浦由美子 (昭和61年卒 岐阜新聞記者)
- 佐治木大知 (平成21年卒 名古屋大学医学部学生)
- 馬淵花菜子 (平成21年卒 国際基督教大学教養部学生)

司会進行

後藤 真一 (昭和41年卒 運営委員会会報部会)

”路面電車での通学、土足で上がる校舎、山の家…” 岐高名物“が続々と。

文武両道で何事にもひたむき。
それが岐高生の特徴。

司会 本日はお忙しいところ、お集まりくださりましてありがとうございます。進行役を務めさせていただきます後藤真と申します。今日は古田知事も参加されていますが、あくまで「同窓生として」ですから(笑)、みなさん、緊張されませんように。それでは最初に自己紹介かたがた、高校時代の思い出や、岐阜高校を卒業して、あるいは教鞭をとられて良かったことなどをお話してください。失礼ながら、年齢順ということにさせていただきます。中村先生から。

中村先生 昭和四十六年から五年間、数学の教諭をやらせていただきました中村です。岐阜高校はとにかく生徒が優秀、先生も熱意があつて優秀。そんな印象があります。余談ですが、昭和四〇年の岐阜国体の開会式で聖火台に点火した古田生徒会長(現・県知事)の姿を当時、テレビや新聞で拝見しました。堂々としていて、やはり岐阜高校の生徒は違うなあと感心したものです。

田村先生 現校長の田村です。岐阜高校には縁あつて、二回目の赴任になります。一回目は英語教師として赴任したんですけれども、初めて岐阜高校の生徒と会った始業式の日、私は圧倒されました。生徒がものすごく大きな声で校歌を歌うんですよ。そういう姿は授業や部活動にも通じていて、何事にもひたむきですよ。だから文武両道で、勉強以外の分野にも秀でた個性のある生徒が多い。代表的なのがアトラクタ五輪に出場した元女子サッカー日本代表の東明有美さん。担任をした教え子のひとりなんですが、彼女のようにオリンピックやインターハイ級のスポーツ選手もけっこういます。

古田 岐阜県知事の古田です。私はベビーブームの最初の年に生まれたので、岐高同級生はこの年から五五〇人！今は一学年何人でしたっけ？

田村 三六〇人です。

横山 元岐阜県立大垣桜高校校長の横山です。古田さんからベビーブームの話が出ましたが、確かに生徒数が多かったですね。一方で「女子が少なかったなあ」というのも印象深く残っています。当時、男子は四〇〇人、女子は一〇〇人で、男女クラスが四クラス、男子クラスが六クラス。友達のお兄さんは「男女クラスになると、おしゃれに気を使つて床屋へ行く回数が増える」なんて言っていましたよ(笑)。でも、それでいて必要以上に異性として意識し合うことなく、みんな仲が良かったですね。自由な校風のおかげだと思います。それから思い出の言葉ついでに「ホケケ」。先生のご都合などで授業が一時間なくなると、その日は繰り上げて早く下校できるっていう。朝のホームルームの時間に、隣のクラスから「パンサーイ！」って声が聞こえてくると「あ、隣のクラス、ホケケ」「いいなあ」なんて話したりして。懐かしいです。

若園 岐阜日野自動車株式会社で専務をしております(座談会後現職に転任)若園と申します。私は本巣市から岐阜高校に進学しましたね。田舎の中学から出てきたので、入学当初は見るもの聞くもの、すべてが新鮮で刺激的でした。なんだか周りみんながシテイボーイ、シテイガールに見えたりして(笑)。地元の中学校のなかでは成績がトップクラスだったので、ひそかにプライドがあったんですが、もうズタズタ(一同笑)。そんな私ですが、三年生の前期に生徒会長をやらせていただきました。無投票でね(笑)。岐阜高校はノンポリが多かったような気がします。

古田 私が生徒会長になった時も無投票でしたよ(笑)。

三宅 岐阜女子大学教授の三宅です。私にとって高校時代の一番の思い出は「山の家(※林間学舎 友学館)」。班ごとに分かれて夕食にカレーライスを作るんですが、どういうわけか私たちの班だけ「鍋にしよう」という話になりまして。火をおこすところから始めたんですけれど、途中で鍋が落ちて灰がいっぱい入ってしまったんです。「どうしょ



林間学舎



旧本館正面玄関からの校舎

う。私たちだけ晩ご飯がない」って意気消沈していたら、大平先生が「アウトドアではこういうのがいいんだ」とおっしゃって。気を取り直して火をおこし直し、おいしく食べたのを覚えています。

古田 山の家はいつできたんですか？

田村 昭和四三年です。奥飛騨温泉郷の栃尾温泉にありまして、学舎の風呂は五〇℃の源泉かけ流しですよ。

横山 温泉ですか。いいですねえ！

臼井 フジテレビで映画制作部のプロデューサーをしております臼井と申します。私が岐阜にいた頃のイメージをひと言で表すとしたら「パンカラ」でしょうか。入学早々、頭から水をかぶる応援団を見たりして、中学を卒業したばかりの少年にとっては恐いというか…とにかく衝撃的でした(笑)。でも、そんなパンカラな応援団のおかげで、野球の応援や行事が盛り上がりましたね。みんなでお腹の底から思いつき歌って、気持ちよかったです。「百折不撓・自強不息」という校訓も、当時はあまり深く考えずに歌っていましたが、年齢を重ねるにつれ、い言葉だなあとしみじみ感じるようになりました。

箕浦 岐阜新聞の記者で、箕浦と申します。私と臼井さんが入学したのは、野球部が創部一〇〇年で、県大会の決勝まで進んだ年なんです。パンカラの応援団と一緒に、長良川球場で水しぶきを浴びながら熱戦を力いっぱい応援しましたね。そして、羽島市出身の私にとって岐阜は

県下屈指の進学校として刻んだ長い歴史の中で 変わったもの、変わらないもの。

かつての学校群制度によって
一番苦労したのは先生だった？!

司会 ご承知の通り、岐阜高校は県下で最古の歴史を持ち、高校受験の制度改革や教育環境の変化に左右されることなく、ずっと名門のイメージを保ち続けてきました。そのあたりを掘り下げて考えてみたいと思

「路面電車で通った学校」。電車の中で英単語を覚えて、覚えたらそのページを食べてなんて…はしませんでしたか？(笑)。車窓の風景とともに、楽しい思い出です。

佐治木 今春卒業し、名古屋大学医学部に進学する佐治木です。私も先輩方と同じように、岐阜に憧れて入学しました。ただ、実際校舎に入ってみると、床がガタガタ言ったりして、その古さにビックリ(一同笑)。伝統がある証拠なのでしょうけれど…。そして土足で上がっているスタイルに二度ビックリ。入学当初はあやうく何度も靴を脱ぎそうになりました。

馬淵 佐治木さんと同じく、今春卒業し、国際基督教大学教養学部に進学する馬淵です。私が岐阜高校をいいなあと思ったのは、学校説明会に参加した中学三年生の時。合わせて三校の説明会に参加したんですが、岐阜だけ、先生じゃなく生徒が楽しくわかりやすく説明してくださったんです。時々、歌を交えながら(笑)。そういう勉強一徹じゃない、自由でのびのびした校風にひかれました。入学してからは私の場合、勉強と音楽部の活動との両立で、駆け抜けた三年間というのが実感です。でも同じように部活だったり、学校行事だったりに全力投球する友人たちと、いつも温かく見守ってくださる先生方に囲まれて、本当に充実した高校生活でした。

ます。といっても、今日は教育制度を論じるといったような固い企画ではありませんので、お気軽に(笑)。

横山 受験制度の改革といえは、昭和四七年に始まった学校群制度が象徴的ですね。あれは加熱する受験戦争に歯止めをかけようとか、学力格差を是正しようといった意図があったと思うんですが、教育現場



路面電車(現在の十六銀行附近)

は大変だったのではないのでしょうか。

中村 私や田村先生はあの当時、まさに「現場」にいました。ご承知の通り、学校群は市内の普通科五校（※岐阜学区の場合）で行われまして、岐阜高校は成績上位の子と下位の子の学校内格差がますます広がってしまっただけです。

田村 平均点をとって合格者を自動的に振り分けたら、どうしてもそういう結果になってしまうんですよ。結果的には岐阜高校では生徒の学力が二極化してしまっただけ聞いています（苦笑）。

中村 裏話になりますが、学校群制度が始まってから急に授業の舵取りが難しくなりました。生徒の理解力にかなり個人差が発生してしまっただけです。

古田 結局、学校群制度は昭和五八年に廃止され、全県一学区になったわけですよ。そのことは何か特別な力が働いたのではなく、学校個々の魅力を取り戻し、固有の伝統や文化を大切にしていこうという自然な動きからだったのではないかと考えています。そもそも、子どもたちが行きたい学校を自分で選択できないのは不自然なこと。本来の志望校以外に振り分けられたら、愛校心だってなかなか養われないですよ。

司会 立命館高校の誘致問題も記憶に新しいところですが、最近、一部の私立高校の台頭がめざましいですよ。生徒が流れるといったことはあるのでしょうか。

若園 私たちが高校を受験したころの岐阜県では公立高校へ進学するところが当然のような風潮で、私立高校という選択肢は自分の中にはなかったような。ただ娘が高校受験する時に初めて知ったのですが、当時女子高だった学校が共学になって大学受験で素晴らしい成績を上げているなど、ずいぶん岐阜県の私立高校もかわったんだという印象はあります。

横山 私立に関しては昨今、高校より中学の時点で動きが見られるのは。一部優秀な生徒が中学受験によってエスカレーター式の学校を選ぶって言う。

田村 おっしゃる通りです。ただ、愛知県の私立中学に入学しても、高校受験の時に改めて岐阜高校を受験して入学してくる生徒もいるんですよ。

すよ。

横山 進学校としての揺るぎない地位がある証拠ですよ。ちなみに今、越境・下宿しても岐阜高校へ、という生徒はいるんですか？

田村 特色化選抜入試は隣接する六学区からの受験が可能なので、大垣や関市などから通っている生徒もいますよ。ただし、下宿している生徒はいません。

男女混合クラスか否かが 運命の分かれ道!?

司会 きっと「変わったな」というところもたくさんあると思うんですが、いかがでしょうか。冒頭で男女比の話題が出ましたが、それも一例です。

古田 今は全クラスとも、男女混合なんですよ？

馬淵 はい。男女比がだいたい六対四で、文系のクラスは女子のほうが多いくらいです。

古田 へえ、そうなんですか。「男クラ」は存在しない。

横山 古田さん、「男クラ」って、もはや死語ですよ、死語（一同笑）。

古田 僕は男女クラスになることを願って、三年になるとき、文系を選んだのに、なんと男子クラス（※古田知事の在学当時は、文系にも男子クラスが一クラスありました）。フォークダンスだけが楽しめましたよ。

佐治木 フォークダンス？？？ですか。

古田 恒例行事でね。実力テストの最終日に、みんなでフォークダンスを踊ったんですよ。それが女子とふれあえる貴重なチャンスで。まさしく舟木一夫の『高校三年生』の世界。歌詞にもあるように、「ぼくらフォークダンスの手をとれば、甘く匂うよ黒髪が」ってね（笑）。

横山 私は別に楽しみじゃなかったけれど（笑）。男子は心待ちにしていたみたいですよ。

中村 かつては男子生徒が本当に多かったですよ。可愛い一年生の女子が入学すると、帰りのショートホームルームの時に廊下に見物客が大勢やって来たものです。評判を聞きつけた一、三年生の男子生徒（笑）でも、頭が良くて美しい女性に憧れる気持ちばかりですよ。





古田 肇 県知事



中村 善光 先生



中村 弘司 先生



横山 仁美 さん



若園 賀夫 さん

制服は「クラシカル」なまま。
ミニ丈にして精一杯のおしゃれを。

司会 制服はすつと変わってないんですよね？

若園 女子の制服はどんなデザインでしたっけ？

馬淵 六つボタンの紺色ブレザーに、箱ひだスカートです。

横山 クラシカルなんです（苦笑）。ブラウスは特に決まりがなくて、白なら何でもOKなのよね（女性一同、うなずく）。

箕浦 加納高校の白襟セーラー服や、岐阜北高校の赤いボンタイをうらやましく思ったものです。

古田 「箱ひだ」って？

横山 いわゆるボックスプリーツのスカートですよ。ジャケットはストリーンとしたシルエット、パッチポケットの付いたダブルで。

三宅 どんなスタイルのいい人が着ても、スマートに見えないっていう（笑）。

横山 私たちの頃はジャンパースカートもあったので、そちらを好んで着てましたね。

馬淵 そうなんですか?! ジャンパースカートがあったのは知りませんでした。

司会 おしゃれで、スカートの丈を短くしたりするんですか？

馬淵 それはしましたね。

横山 流行なのでね、善し悪しは語っても仕方がないんです。うちの娘も入学当初、規定のスカートを着せて送り出したら、帰って来て言

うんです。「お母さん、一度学校に来て。こんな長いスカートを着ている人なんて、ひとりもない」って。実際見に行ったら、本当にいないんですよ。観念して、スカート丈を一〇センチほど短くしました。

若園 靴下は？ 一時、ルーズソックスが流行ったでしょう。

馬淵 今はみんな、普通のソックスですね。

横山 流行った頃はもちろん、もれなく履いてましたよ。でも、茶髪の子は見かけないですよ。

佐治木 はい、いなかったです。

田村 生徒たちがしっかりしていて、ちゃんと心得ているんですよ。「こまではいいけど、ここから先はダメ」っていうラインを。だから私たちもよく言うんです。「君たちはいちいち厳しく言われなくても、自ら律していくんだぞ」と。

岐阜高校は生徒だけでなく、教師にとっても憧れの学校?!

司会 田村先生がおっしゃるように、岐阜高校は全体的に自由な雰囲気ですよ。先生と生徒の距離も近いと思いませんか。

中村 バレンタインデーになると、生徒たちが先生にチョコを贈ったりしてましたね。人気のある先生は、机がチョコの山になって（笑）。そうそう、ある年には、女子生徒が一〇人くらいで私のところに来て「校長先生にもプレゼントしていいですか」って言うんですよ。



現在の正面玄関からの校舎



現在の教室内



三宅 茜日 さん



日井 裕詞 さん



箕浦由美子 さん



佐治木大知 さん



馬淵花菜子 さん

「ああ、きつと喜ばれるんじゃないかな」と言いましたら、笑顔で校長室のドアを開けてお渡ししに行きましたね。佐光先生（※昭和四七年〜昭和四九年の校長）は「長い教師生活の中で、バレンタインチョコをもらったのは初めてだ」とおっしゃり、大変喜んでおいででした。

三宅 生徒がとても純粋で素直ですよ。私は大学四年生の時に教育実習で三年の男子クラスの英語を担当させてもらったんですが、「先生の先生に恥をかかせてはいけないから」と言っ、みんながすごく協力してくれました。普段はちっとも勉強しない子たちも、単語テストでそれまで取ったことのないような高得点を出したりして（笑）。そして忘れられないのが、最後に野球部のキャプテンだった生徒が「先生、これ」と言っ、甲子園の土をプレゼントしてくれたこと。一年生の時に出場したそうで、とてもうれしかったですね。当時の生徒で、今だけ付き合ひのある子もいるんですよ。

司会 これは裏話的なことになりましたが、岐阜高校というのは先生方にとっても赴任してみたい学校だったりするんですか？

中村 それはもう。教師になった以上は、一生懸命説明しても横を向いて知らん顔の生徒より、「打てば響く」生徒を教えたいと思うのが本音ですよ。岐阜高校の生徒は賢い上に素直。素直だから、学んだことをどんどん吸収して自分のものにしていく。教えがいがあるわけです。私も「もっといい授業をしよう」と、よく夜中まで別解を考えたりしていました。中身の濃い授業をしますとね、生徒が最後に拍手してくれ

ることもありました。こんなうれしいことは私の教師生活の中で、岐阜高校赴任中だけでした。

机に砂塵が積もったのも「今は昔」の話。

司会 大きく変わったといえば、やはり新校舎ですよ。

田村 はい。四年間かけて工事を進めているんですが、その第一号をこの春から使わせていただきます。

古田 考えてみたら、我々の卒業時に完成した校舎が建て替えられることになったわけでもんね。時代の移り変わりを感じます。

横山 あの頃の校舎はほんと、古かったですよね。

古田 古いなんてもんじゃない、もうボロボロ（一同笑）。床がベコベコ音がするわ、裸電球で暗いわ。それに風の強い日は運動場の砂塵が入りこんで、机にうつすら積もったりするんです。よくあれで勉強できたなあと思いますよ（笑）。

若園 新校舎に冷暖房設備は付くんですか？

田村 いえ、暖房だけです。

古田 冷房の設置に対するご要望は大変多いんですが、どこか一校付けると、必然的に県内全部の学校に付けなきゃいけなくなるでしょう。申し訳ないんですが、県の財政事情からして、それはどうしても難しいんです。



旧本館東からの校舎

PSセミナーやジョイントセミナーをご存じですか？ 進路指導や授業も進化しています。

『豆単』はもう古い?!

今はZ会の参考書が主流です。

司会 大学受験に関しては、今も変わらず非常に好成绩をあげていますが、特に工夫というのはいはされているのでしょうか。

田村 受験勉強に王道はないので、授業をきっちりやるといのが基本です。希望に応じて夏休みに課題講座や特別講座を行います。あくまで授業がベースですね。もちろん、進度は早いですけれど。

古田 考えてみたら、一年生の夏休みまでに『豆単』やって、後半で『親単』やって、『山貞(やまてい)』も全部暗記するでしょう。大学受験に必要な勉強は基本的に二年生で終わっちゃうわけじゃないですか。大学に行つてね、他校出身の人にその話をする、よく驚かれましたよ。

田村 あ、『親単』と『山貞』はもう絶版になりました。もっぱらの噂では、岐阜高校が使わなくなったからです(同笑)。内容がちよつと難しいんですよ。

古田 そうなんですか?! あれ、こないだ本屋さんで『山貞』を見たような気がするんだけど…。

田村 それはたぶん、復刻版ですね。根強い人気があるみたいなので。

古田 今はどんな参考書を使っているんですか? 『でる単』なんていうのもありましたねえ。

一同 ありました、ありました。

馬淵 今はみんな、Z会の『速読英単語』を使っています。

古田 Z会の『速読英単語』? 初めて聞いたなあ。

田村 キャリア教育の一環として大学受験に対する最近の取り組みの中では「PS(※Parents to Students)の略)セミナー」が好評です。これは医師、弁護士など、さまざまな分野で活躍中のOBを講

師として一〇名ほどお招きして、一年生との交流を図るといふもの。

生徒にとっては憧れの職業について具体的に聞く絶好のチャンスになっています。OBのみなさんにも「懐かしい校舎で後輩たちと話ができて楽しかった」と喜んでいただいているんですよ。

横山 「ここががんばったら、あんな風に立派になれるんだ」って思えますものね。説得力があるんじゃないかしら。「将来なりたい自分」というのを見据えて進路を考えるのはとてもいいことですよ。

田村 それから昨年度の夏休みには初の試みとして、東大のキャンパスを訪問する「ジョイントセミナー」を実施しました。

古田 三年生が参加したんですか?

田村 いえ、三年生はもうおおよそ進路が決まっているので、二年生が対象です。こちらでも予想以上に反響がありまして、一泊二日のバス旅行にもかかわらず、一〇〇名ほどの参加者が集まりました。研究室なども見学させていただいて、生徒たちのモチベーションがぐっと上がりましたね。これもひとえに諸先輩方のおかげですよ。

司会 クラブ活動に関しては最近どうですか?

佐治木 僕は野球部出身なんですが、最近人数が多くなって、一年生も入れると七〇人くらいいます。成績は別として(笑)、活気があります。

箕浦 馬淵さんも活躍された音楽部が今、全国的にも有名なんですってね。

馬淵 はい。全日本合唱コンクール全国大会で金賞を受賞しました。

田村 二〇〇四年、二〇〇六年、二〇〇七年と三回岐阜県民栄誉賞もいただいています。

古田 音楽部はいつごろから強くなったんですか?

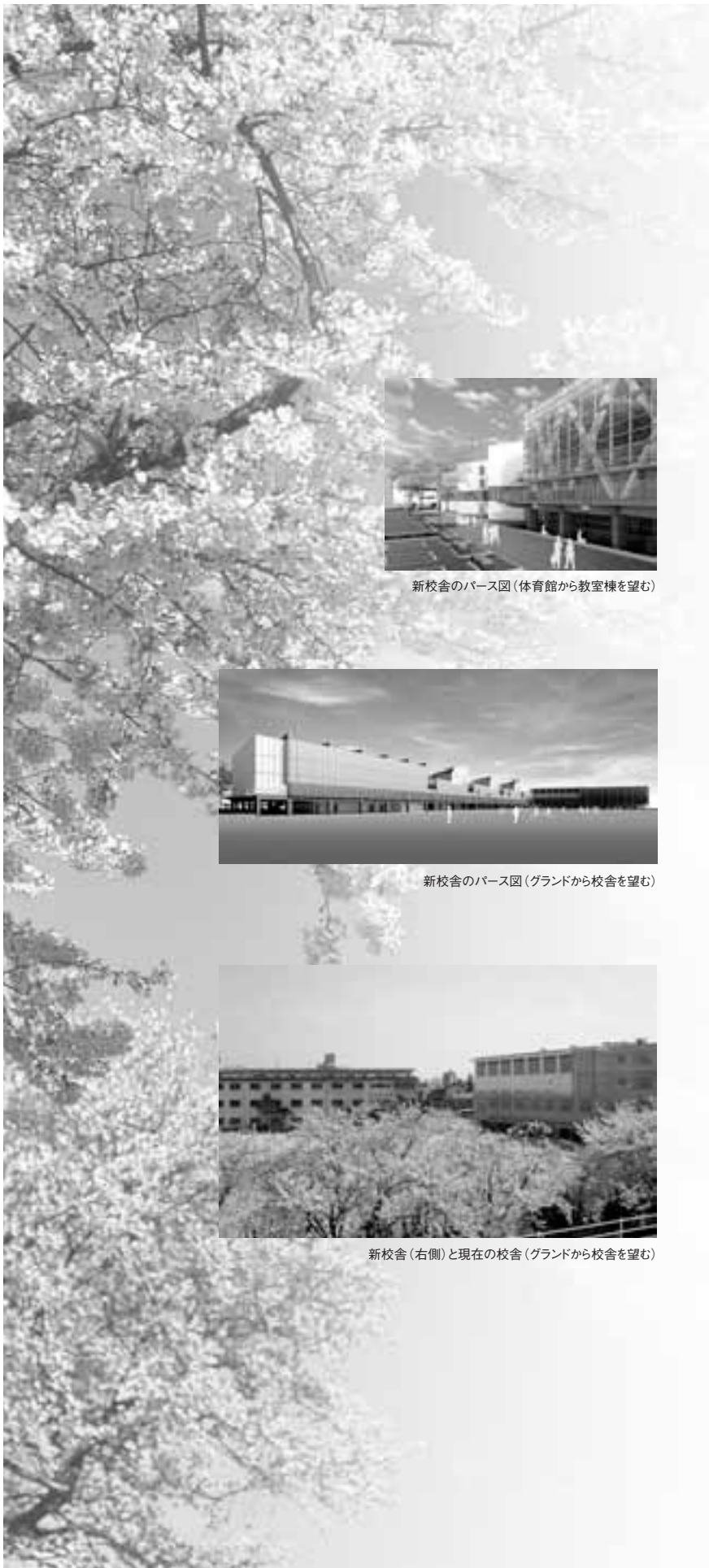
馬淵 コンクールで入賞するようになったのは二〇年ほど前からです。



2008年10月25日、香川県で行われた第61回全国日本合唱コンクール全国大会にて「金賞」を受賞



2008年8月のジョイントセミナーat東大



当初は部員が二人だったときもあるそうです。先輩方が積み重ねてくださった実績のおかげで今の私たちの活動があると思っています。

横山 合唱って、見た目は優雅だけれど、実は練習がとってもハードなんじゃない？

馬淵 はい、思い切り体育会系です(笑)。夏とかは体力的にキツイ日もありました。

司会 そのそろお時間が迫ってきました。最後に、同窓会に期待されることや、よりよい運営のためのお知恵を拝借できればと思います。

横山 先ほど出たPSセミナーもそうですが、「交流」というのがひとつのキーワードになりますよね。



新校舎のパース図(体育館から教室棟を望む)



新校舎のパース図(グラウンドから校舎を望む)



新校舎(右側)と現在の校舎(グラウンドから校舎を望む)

白井 せっかくだくさんの卒業生がいらっしやるわけですしね。

箕浦 私はずっと地元で働いているということも関係していると思います。取材で岐阜高校のOBの方に会う機会が多いんです。その際、出身校が同じと分かると親近感を持つてくださって、打ち解けた雰囲気になるんですね。けっこう得しちゃってます(笑)。

古田 総会以外にも、今日のように世代を越えた楽しいイベントが種々あるといいかもしれませんね。期待しています。

司会 本日はありがとうございました。岐阜高校のますますの発展を願って、この座談会を締めさせていただきますと思います。



硬式野球部 平成20年度秋季大会 県大会ベスト16

恩師からの メッセージ



高貴降霊な 語り草

伊藤 秀幸

(在職 昭和32年~47年)



定年退職後一六年、大縄場を離れて三七年になる。この歳になると莊子の「白駒(はくく)の卻(げき)を過(す)ぐるが若(ごと)し」で、人生もほんの一時に思える。

赴任当時は鉄筆ガリ版刷り。実力考査の偏差値を手回し計算機や計算尺で出していたことを

思えば、パソコン、メモリースティック、携帯電話にデジカメなどは異次元の世界である。

今は恵那市東野というところ

に住み、元禄時代から三百年の歴史を持つ歌舞伎保存会の会長などのボランティア的な仕事をしていたのんびり過(こ)している。この地は明日香出土の木簡によると、

卜占によって天武天皇の大嘗祭の主基田(すきでん)に選ばれ、次米(すきのこめ)を奉納したところと思われる(?)。また明治天皇巡幸の折りには宿所の膳

米を献上しており、今でも「東野コシヒカリ」は魚沼産より美味しいとさえいう人がいる。扇状地で水はけの良い砂地であるからであろう。

生まれ在所の阿木では山間(やまあい)の痩せ地が多く、一町三反を耕作しても収量は八〇俵足らず。新開田の田植えをする

と手の爪の間に小石が挟まり、耕土を増やすために鋤込んだ草木の枝で足が痛かった。「作り土を一尺にするには百年かかる」と祖父が言っていたのを思い出す。

この新開も今は減反政策で楡が植えられている。一度田を荒らし草の根が粘土層を突き抜ける

と漏水し元には戻らないという。ここ東野は金原明善翁の教えを守り、数十年に亘り村中総

出で植林事業を続け、一千町歩の木曾檜の美林を育てている。明知線で中学へ通うとき阿木村の家の殆どが草屋根であるのに、

列車が東野へ入ると白壁の土蔵のある二階建ての瓦屋根の家屋敷ばかり、中には三階建も数棟あって別世界のように感じられた。これは、近郷が生糸の繭中心の養蚕なのに反し東野はいち早く蚕種(さんしゅ)「蚕蛾(かこが)の卵」の生産に力を入

れ多くの家が産をなしたからである。特に、村内に風穴(ふうけつ)を造り蚕種を冷蔵し年間を通じて出荷し、また、ドイツから顕微鏡を購入して病菌を駆除し優良な蚕種をくって販路を朝鮮や台湾にまで拡大し、技術者養成に養蚕学校まで開設したのである。更に、村民が金を出

し合って県下一の灌漑用の『保古の湖』を造り百町歩の新田を開発した。日本シクラメン栽培発祥の地も東野である。戦後、朝日グラフで「白い共産主義」として取り上げられたが、その基礎は若者達に教えた二宮尊徳の『報徳精神』にあったようである。

ところで、昭和四〇年頃の二学年のHRで将来の食料危機について話し合ったことがある。田圃を砂利で埋め立て次々と家が建てられていくのを見て話題にしたのである。「作り土だけでは何処かに保管すべきだ」というと、「山の中腹に穴を掘って住めばよい」という者もあり、議論していると遂には「山に穴を開けると地下水脈が変わるので、海中に住居を造るのが一番いい」と言うことになったと覚えている。日本にはまだ食料危機

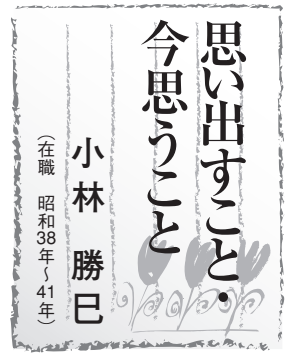
は到来していないが、当時三五億の世界人口は今や六七億人だという。

三〇年程前になるが、東京のある講演会の講師が「食料危機は大丈夫。東京湾に巨大な塔を何本か建て回転ベルトコンベア式で稲を作る青写真はできている。これを公にすると農家が困るので口止めされているが。」といった。以後そんな話は全く聞かえてこないけれども、何時かそんな日がやってくるのかも知れない。

少し立ち止まって、人類の未来に繋がる壮大なプロジェクトを考えてみてはどうだろうか。バーター貿易でなく輸出超過分に

応じてODAに拠出し、国連が主体となって例えば、海水を真水化しパイプラインで送って「砂漠を緑化する」事業、葉緑素類似化合物を合成し工業的にブドウ糖やデンプンを、更にタンパク質や脂肪を作り「食糧難を解決する」事業など推進してはどうか。必要ならば世界中から多額の賞金付きで特許技術を募集すれば解決は早いかも知れない。





この「会報」への寄稿は、一〇年前に続いて二度目のことになる。前回の稿を読み返してみていると、四〇年以上を隔てた昔の、岐高での日々が今なお鮮烈に蘇ってくる。

私が母校岐高に赴任したのは昭和三八年四月、在任期間は昭和四一卒の諸君の在学期間と同じ三年間だけである。しかも学級担任として、この学年を一、二、三年と順に持ち上ったので、他の学年の諸君とは（部活の演劇を除いて）没交渉であり、岐高の思い出即この学年の諸君との思い出ということになる。

赴任した時の私は二六才で、

教師としてはまだまだかけ出し、未熟そのものの時期であり、教科指導にしてもホームルーム経営にしても、毎日毎日が新しい経験で、自分の若さだけを頼りに必死に諸君にぶつかっていった日々だったと思ひ返される。こんな私に比して生徒諸君はどうであったか。第一に極めて優秀だった。全県下から集っていた（この当時は学区制の制約がなかった）諸君は実に優秀な頭脳の持ち主たちで、授業等の理解度は深くかつ早かった。第二にそれぞれが個性豊かだった。時にはその個性の強さの故に、担任としては苦勞させられたことも幾度かあったりはしたが、三八年の教師生活の中で出会った最高の生徒集団だったと思うし、この優秀で個性豊かな諸君のおかげで、私自身教師としての基礎を鍛えられたとも思っている。

こうふり返ってみると、岐高三年間の思い出は、前稿にも記したとおり、諸君に対して「感嘆・感謝」ということばに集約されると思う。この昭四一卒の諸君もすでに還暦を過ぎ、一般の職場では定年を迎えておられるわけであるが、皆さんは自分の

岐高時代をそれぞれどんなふう

にふり返っておられるだろうか。話は変わるが、私は平成一六年食道癌で開胸手術を受け、食道の下半分と胃の上部を切除したが、幸い発見が早かったおかげで他への転移はなかった。その一方膀胱癌の手術も、平成六年を初回として、昨年で五回目を受けた。こちらはいつ再発するか分からず心配である。考えてみれば医学の進んだ現代だからこそ今も生きておられるわけ、これが五〇年も前だったらとつくにこの世を去っていただろうと思う。同時に、自分も結構良い年令になった、残された時間はほとんど少なくなった。そんななかで最近次のようなことを考えている。一つは「私の戦争（空襲）体験」をまとめておくことである。「改憲」の動きが見え隠れし、戦争が美化されたり、海外での武力行使の意図さえ感じられる昨今、幼なかつた日（敗戦の年は小学三年生）の体験を記し留めておくことは意味があるように思うからである。書き記せば小さなことがらばかりかも知れないが、私の脳裏には空襲を受けた時の



光景などがいくつも残っていて、何かの折に思い出されてならないからである。二つは、いわゆる「自分史」をまとめてみることである。これは誰かに見せるためではない。自分自身の今までを——生きてきた意味を確かめてみたいからである。私は若い日の一時期短歌を作って自己表現をしていた。今では悔まれるが、ある時からそれをやめてしまったため、それ以後自分の心の記録は何も残っていない。まとめの手がかりになる写真などの資料もほとんどない記憶だけを頼りの仕事になるので、大変だとは思いますが、できるだけ早い時期にと思っている。

勝たねばならぬ
昭和三八年春、廻ること四六年前はやほやの新任教師として岐阜高に赴任した。三年後の岐阜国体で必勝を期すための強化選手の一人としてである。ところで今、約半世紀を経て三年後に二巡目の「ぎふ清流国体」を迎えようとしている。国体は全国都道府県で順番に実施されるため、一回りするには約五〇年を要することになる。こうした時空の経過の中で、地元国体開催に再度関わりを持ってようとしていることは、この上ない幸せである。反面、当時の教え子達にはや還暦を迎える者もでてくるとなると、今更ながらによる歳なみをひしひしと感じ、時の移ろいに感慨を覚える。

に出向くなど、現在では到底考えられないような体制の下での取り組みであった。強化選手としての我々は、目標達成のため「勝たねばならぬ」をモットーにして緊迫感の伴う真剣な態度で練習に臨んだ。一方、生徒達も開会式のマスゲーム要員としての練習に没頭し、授業の合間にかんがりの時間を拘束される等、学校あげて国体一色であった。

こうした取り組みもあってチームは悲願の優勝を遂げ、はるばる関東から乞われて岐阜の地に来た使命を果たすことができた。さらに県としても天皇・皇后両賜杯を獲得し開催地としての面目を保った。その後、この岐阜国体の遺産は営々と受け継がれ紆余曲折を経て、今まさに二巡目の国体を迎えようとしている。

教えながら学ぶ

二〇代頃の教師生活は、まさしく生徒を指導しながら自ら学ぶといった典型的な姿であったように思う。生来運動はあまり得意でなく、体育教師になったのもたまたまサッカーをやっていた程度のもたまたまサッカーをやっていた程度の動機であった。授業の陸上競技の指導では、各種フォームの基本形をデモストレー

ションして繰り返す中で、自身の技術が向上していきこれまで以上のパフォーマンスができていったような気がする。五〇M走、走り幅跳び、走り高跳びなどの競争をするため生徒と連れだって放課後にグラウンドに飛び出し、若気のいたりか負けるのが悔しくて勝つまで真剣勝負を繰り返した時もあった。さらにこれも遠い思い出であるが、

当時冬場の体力造りの一環として長良川堤防を走るマラソン大会が行われていた。長良川の河原の方から草の生い茂った堤防を一気に駆け上ってスタートし、河渡橋で折り返しする堤防道路をひた走るものだった。当時は、砂利道であったため走りづらかったこともあり車の通行はほとんどなかった。血気盛んな若年教師であった私も生徒に負けるものかと意気込んで参加した。運営委員である生徒が先導役よろしく自転車で行先してくれたが、道路状況の悪いこともあり、先頭を走っていた私がそれを追い抜き置き去りにしてしまうようなスピードを持ってトップでゴールしたことがあった。今思うと、そのころは生徒との年齢差もあまりなく、互いに切磋琢磨

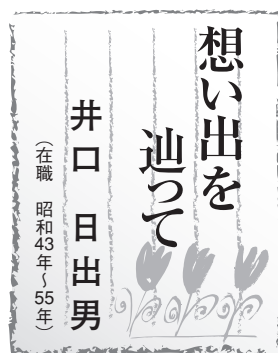


岐高マラソン大会で1位

磨できたことは長い時を経て鮮烈な思い出として残っている。生徒との絆

毎年正月とお盆に、岐阜高と岐阜北高の当時の両校サッカー部OBは、ここ三〇年ほど親善交流試合を行っている。私の部活動の教え子が同世代で相まみえた永久の因縁の相手と試合を今でも継続しているのだ。現在、年二回の定期戦には髪も薄く、白髪交じりの、はたまたメタボリックな体躯の面々がどこからともなく意気揚々と参集してくる。私も毎回プレーヤーとして参加し、メンバーと共に楽しく汗をかかせてもらっている。こうした中、彼らの一途なプレーに接するにつけ、半世紀ほど前の若かりし頃の面影と重なり懐かしさがこみあげてくる。サッカーは激しい動きを伴う若者向きのスポーツのように思われがちであるが、今やシニア層に

おける普及は目覚ましく四〇七〇代に至る各カテゴリーで体力、技術レベルに応じて楽しまれている。この定期戦も年齢的に似かよった連中が集まるため大した怪我もなく、毎回親交を深め楽しい雰囲気で終始し、次回の対戦を待ち望みながら続いている。これも部活動のもつ特有の同好の趣味を持つ者の集まりであることがこうして何一〇年も継続し、サッカーを核として絆を深めている所以なのである。これから先は、私が転ぶか、教え子が転ぶか、日々の健康管理・自己管理の勝負が続く。



岐阜には一三年お世話になった。山貞・親単でテストの連続であった。当時の英語は、語数が非常に多く、構文・文法も難しく大変だったと思う。でもさすが岐高生、先生方の期待によく応えてくれた。旺文社の模

試で、三年生の全体の平均点が全国受験校の中でも一、二位の時があった。国際化の現在では国の内外で活躍している卒業生諸君もその活躍の実用面で大きな語学力となって役立っていると思う。このなつかしい山貞(研究社)も今は絶版になってしまった。これこそ岐高英語の魂とも言える貴重な遺物である。次に校務としては、進路課の仕事を始めから担当した。年度末に大学入試の可否の統計を取って驚いた。今までに勤めた学校とは大変な違いである。国立一期(当時の制度)に百何人、国立二期に五〇何人、有名私大に二百人以上(国立とダブルあり)も合格しているのである。こんなに優秀な岐高生に教える使命を考えると、何ともいえない、良き教師仲間を支えられて、毎日が勉強と作問と採点の連続であった。進学成績がこのように、素晴らしい結果が報道されるので、全国の有名進路学校から年に二、三〇名の進路研究の訪問相談を受けた。そのための資料作りと対応にずいぶん苦労もした。昭和四〇年の後半年度は、先述の国立一期の合格者が二五

○名を超える年もあった。ダブルで受験できる国立二期は約一〇〇名、公立は約五〇名、私立はトップ校約二〇〇名を含めて六〇〇名以上の合格者を出した。当時の受験誌によると全国のトップクラスであった。

こんな岐高も長い歴史の中で昭和四八年に百年祭を迎えた。当時は創立百年の学校は少なく、大いに誇りを感じながら、盛大に記念祭を行なった。ちょうどその頃、市内の普通科高校間の学力格差のことが問題になり、県でも学校教育のあり方が検討され、入試が変わった。

岐中、岐高女、岐高と、若い生徒があこがれた時代とはちがいが、合格しても、半数しか入学できない新しい入試が行なわれることになったのである。昭和四九年度より所謂「学校群制度」という総合選抜入試が始まった。東京都の実施により愛知、岐阜も検討されたのである。従来の単独選抜のデメリットが取り上げられ、岐阜市内普通科五校（岐高、北高、加納、岐山、長良）が群を組んで、群で選抜された。岐高は加納と五対四、長良と五対五であった。新制度は、学校格差を是正するという主旨であ

ったが、学力格差のみを以って学校格差を考えるのは如何なものか！と言う人も多くいた。しかし、県教委はこの制度をスタートさせた。当時、教務のチーフとして単独選抜時代の数倍も苦勞した。群で合格するので岐高へ入学できる確立は約半分である。中には岐高へのくじにはずれて、寝込んでしまった者もいた。この制度も本場にメリットのあるものであるならば、何故八年ほどでやめてしまったのであろうか。単独選抜に戻ってから二五年にもなる。今年の当番学年の昭和五一年卒の人達の次からである。どんな思いで入学したか聞いてみたいと思う。

英語の授業ではよく脱線もした。歌が好きだから、英語の歌でリズムや詩の勉強をした。こんなこともあった。学年最後の授業に行った時のことである。教壇の上に、立派なケン玉（CUP & BALL）が置いてあった。修学旅行の時に「ケン玉ならまかしておけ。」と言ったらしい。「その演技を見せてください。」と英語で書いてあった。「OKI LOOK・AT・ME」と書いて、得意(?)の技を十種類位やった。運よくうまくやれた。大

拍手であった。

話をしたら、文法の先生が、コマを廻してきた。その後、職員室で一時ケン玉がはやったこともなつかしい思い出である。学校祭、球技大会、万博、林間学舎（友学館）など思い出はつきない。

最古の歴史ある岐阜高校
バンザイ!!



昨年一月に、学生時代同じ研究室で過ごした者たち九名が集まって、卒業後六回目の同級会をもった。大阪箕面市の「みのお山荘『風の杜』」という旅館を宿舎としてである。

大学を卒業したのは昭和三四年（一九五九年）三月。今から五六年前になる。

五六年間で六回というのは少ないと思う向きもあるかもしれないが、本業（こういう言い方があるのかどうか知らない。ただ、同級生の就いた職種が六〇才定年というものばかりではなかった。）に従事していたときには、それぞれの仕事が忙しくて、同級生の身の上に、何か「こと」がなければ集まることのできなかった。しかし今では、皆が第二の人生を送っており、最近では、ほぼ二年ごとの間隔で会を持つようになっていく。

私の同級生は、卒業時、男性六人女性六人の一二名であった。しかし今では、三名が鬼籍に入っている。

一人は作家を志望していた人である。彼は学士入学をしてきて、われわれより四、五歳年上であった。その穏やかな人柄とどんなことでもジツと聴いてくれる兄貴的存在であった。後に彼は印刷会社を興し、その社長になったが、当時、彼の生家は公衆浴場を経営しておられた。四年次のコンパの後、営業の終わった浴場の広い脱衣場で、朝ま

で酒を酌み交わしながら文学を語り恋を語ったことを思い出す。

もう一人の男性は、工業高校の出身者で、私も同じ校種出身であったがために話がよく合った。どちらかというと、無口で朴訥な人柄であった。卒業後、彼は家業の家具店を継いで生涯を送ったが、心筋梗塞でこの世を去った。彼の葬儀に出たとき、彼は家業を手広く行っていただけなく、住まう町の発展に多大の貢献をしていたことを知り、感動したものであった。

あと一人は、尼僧姿で研究室に通っていた人である。彼女は卒業後東京の大学の院にすすまされたが、還俗して結婚された。香典を送った礼状を息子さんからいただいたが、ストイックな彼女の生涯が記されており、とても心に残る手紙であった。有吉佐和子さんが、彼女をモデルに『美つつい庵主さん』という小説を書き、後にそれが映画化されたのを知ったのは、最近のことである。

国語国文専攻で、『伊勢物語』や『蜻蛉日記』等の研究にのびのびと日本の権威にご指導をいただき、学究的雰囲気の中で青春時代を送ったわれわれであった

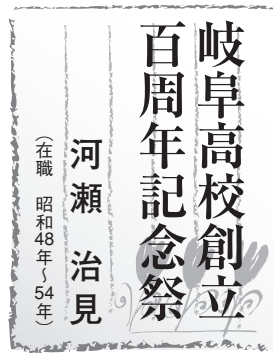
が、卒業後、そうした生活を続けた人は、金沢学院大学の教授を退職し、今は「泉鏡花記念館」の館長をやっているA氏だけで、私も含めてあとの者は不肖の弟子であったようだ。

それでも、『地上』という小説の作者島田清次郎の生涯を描いた戯曲『島清、世に破れたり』で文部大臣奨励賞を受賞し、今では「金沢ふるさと偉人館」の館長を勤めているM氏、自然主義派作家加能作次郎の事績を追いながらも、「北国新聞」の記者を勤めあげたH氏、主婦として結婚先のお店をしっかりと守りながら、社会教育委員として地域に貢献していたYさん、夫を亡くした後も、特技だった卓球の経験を生かし、いまだに中国と交流に努めているIさん、弁護士のを助けてその事務に精励しているNさん等々多士済々ではある。それだけに、集まったも話題にはこと欠かない。

先述したように、今回は箕面市在住のIさんの肝煎りで、生存者九人が集まった。そして談論風発、楽しい一夜を持つことができた。

名の知れた「箕面の紅葉」は、少々時期が早かったのか、「全

山これ紅葉」とまでは行かなかったが、緑と紅の綾なす景観は盛時を偲ばせるものであったし、山上の宿舎から眺めた大阪平野の夜景のすばらしさ、さらには、翌日の大阪の国立文楽劇場での文楽鑑賞（外題は『双蝶々曲輪日記』と『八陣守護城』であった。）に堪能し、次回の再会を誓い合って別れたことであつた。



栄えある伝統と歴史を誇る岐阜高等学校は創立一二五年、この間に四万人にも及ぶ卒業生は県内はもとより、国内外のあらゆる分野で活躍され、期待に応

えておられることと確信しています。

岐阜高校同窓会総会運営委員会会報部会の昭和五十一年卒の出口和宏君（卒業時の担任でした）から会報原稿の依頼が電話でありましたが、かなり昔のことだからと渋っているところへ会報部会長の後藤真一さんと五十一年卒で二年の時に教えたことのある会報部会の児玉智永子（瀬川）さんから丁重な手紙をいただき、記憶を辿ってみようかなという思いになりました。

前任高校で岐阜高校への異動の内示を学校長から知らされたとき、私は内示の取り消しをお願いしました。岐阜高校といえど天下に知れ渡った進学校、私にはそこで教える自信はありませんでした。また、通勤距離は二倍・通勤時間は忠節橋を渡るので三倍になるからでした。しかし、この内示は覆されることなく現実のものとなってしまいました。

岐阜高校の先生方も生徒諸君も私を暖かく迎えてくれ、不安などは瞬く間に消え、授業に部活動に充実した日々でした。私の授業は最初に季節に関すること・歴史的なことなど二・三

分話してから授業に入っていたこと覚えていますか？部活動も盛んで、いつどこでどうして勉強しているのか、いつも試験をするたび私が求めた解答よりもっといい解答が返ってくるのに驚かされました。

赴任した年は二年生の副担任でしたが、林間学校、修学旅行、文化祭など思い出に残るものですが、なんとと言っても忘れることができないのは、「岐阜高校創立百周年祭」と第五〇回選抜高校野球の春のセンバツ大会出場でした。「岐阜高校百周年記念祭」についてはその時の発行された記念誌で見えていた。

の甲子園だったので今でも当時のことが浮かんできます。先生方も当時がなつかしく、堀校長先生を中心に「岐高を偲ぶ会」というのがあり、毎年二〇名ほどの先生が集まっています。

堀校長先生の名前が出てきたのでエピソードをひとつ、修学旅行のとき、私は担任として生徒引率をしました。堀校長先生も一緒でした。校長先生は若く見えるが、私は頭が薄く貫禄があったのか（？）バサガイドも旅館のおかみさんも私を校長だと思い、ガイドは私を「校長先生」と呼び、旅館に着けば真っ先に私のカバンをもっていき、堀先生は校長扱いされませんでした。そんなことが何度もあったので、いまだに、さきほどの集まりがあった折などにはひやかされています。

二月一日、センバツ出場の連絡が高等学校野球連盟から校長室に電話で入り、部員に知らされると同時に校内放送されるとあちらこちらで歓声が上がりました。一六年ぶり三回めの出場でした。早速、応援団を結成し、三月二八日吉備高校との試合に応援団を引率して甲子園のスタンドで応援、七対一で快勝、しかし、四月一日の二回戦は桐生高校に負けはしましたが、各新聞には文武両道の高校として記載され、私にとっても初めて

もうひとつ、公開ホームルームがあって多数の先生方が県下各高校からこられました。普段のホームルームは和気藹々のもので平凡なものでしたが、公開となるとどう展開したものかなと思ひ、司会者を呼んで進め方を話したところ、司会者は「任せておいてください」というので

す。当日、生徒は議論が活発になるように、反対の意見を出し、頷合を図って私の意見を求めるなど普段にはないホームルームにしてくれました。あとで私の知っている先生が、「いいホームルームだったよ」と褒めてくれました。生徒に助けられた思いです。

授業のことでは、夏目漱石の「こころ」でKが「覚悟—覚悟ならならぬことはいない」の「覚悟」とはどんな覚悟なのかとか、また自殺したKの遺書の中に「もっと早く死ぬべきだったのに何故今まで生きていたのだろうか」「何故」の理由は何であったろうか? 「もっと早く」とはこの時点をさすのかなど議論したが、結局、私自身も理解しないまま終わっているが、歳月を経て人生経験を踏んだ皆さんがこの作品をもう一度読み直して考えてくれたらと思います。それからもうひとつ、二年生の教科書にあった中島敦の「山月記」の内容を覚えていますか。これもぜひもう一度読み直してもらいたい作品です。

今や世界中不況の風波が吹き荒れて狂っています。これまで順風満帆であったのが、百年に

一度の不況に見舞われ、苦難の道を歩かなくてはならない方もあるかと思いますが、このときこそ岐阜高校で培った「百折不撓 つとめてやまず」の精神をもってことにあたっていただきたいと願っています。

最後に皆さま方のご活躍とご健勝を祈念し、私の拙文を終わらせていただきます。



昭和五〇年……、遠い昔となりましたが、出産・育児で一旦退職した私が、七年のブランクを経て再び正式に教員として再出発した年でした。

子供は小学校一年と幼稚園年中でした。家事・育児を一手に引き受けつつ教員としてフルタイムで働くのは、非力な私には大変なことです。

懸命に努力はしましたが、当時の生徒の皆さん、同僚の先生方には随分ご迷惑をおかけした

ことと思います。

その後も何とか教師を続けられたのは、大部分の生徒の礼儀正しさ、優しさと先生方の思いやりのお陰でした。また、自分の知っている文学を生徒に教える楽しさ、教えることによって自分も勉強する楽しさ、生徒から帰ってくる反応の楽しさ、これは家庭にあつては得られない充実感、達成感でした。

復職した以上、どんなに苦しくても頑張ろうと思いい努力しましたが、実際はつらいこと、悲しかったこと、自分の人生や社会への悩みや疑問など様々ありました。

ずっと後のことですが、娘が大学入学で家を離れる前の一カ月間、家において一切の家事をしてくれました。学校から帰ると「お母さん、ちょっと休んでいて」とお茶を入れて、新聞を持ってきてくれました。買物、夕食の支度、後片付け、洗濯、掃除、アイロンかけ、そして朝食の支度、お弁当作り、ゴミ出しから回覧板まで一切してくれたあの一カ月の日々、「ああ、男の人はこういう楽をしているのか」と目から鱗が落ちる思いでした。

私が、家事・育児・夫の世話、

近隣の仕事など土曜、日曜もなく一切をこなしつつ、教員として働いた歳月は、非力な私が、重い荷物を背負って、身軽な男性と同じスピードで走り、しかもそのつらさを職場でも家庭でも口に出すことが出来なかった厳しい歳月でした。自分が選んだ人生である以上、黙って自分でやり通すしかなかったからです。

しかし、私の誇りはまたその点にあったと言うことも出来ません。私は人の倍働いたことに誇りを持っています。

生徒との対話を優先して我が子との対話が欠け、充分な手をかけてやれず、「鍵っ子」として育った子供達に申し訳なく思いました。その分早く自立して、今はそれぞれ家庭を持ち、子供を育て、仕事に励んでいきます。

私の能力が不十分であったため、恥ずかしい思い出も一杯ありますが、自分としては、本当に良い勉強、良い経験ができたものが沢山あったことを感謝しています。あの厳しかった二〇数年があったからこそ、今の人生の充実・幸福があるのだと思っています。

今は夫との平穏な二人暮らしで、畑に四季折々の様々の花、とりわけ一三〇本のばらを育て、合唱団や、山登り、海外旅行、カルチャーセンターなど様々な趣味を楽しんでいます。沢山の良い友達にも恵まれて刺激を受け、頭と体と心の老化防止を心掛け、忙しく暮らしています。

現在も日本では、既婚の女性が働く環境は厳しく、それが我が国の急速な少子化と高齢化の一因にもなっています。誰もが普通に結婚して子供を育てつつ、社会で生きがいを持って働き、自己の可能性を実現している、そういう「人間としての基本的な生き方」が可能な社会を願っています。

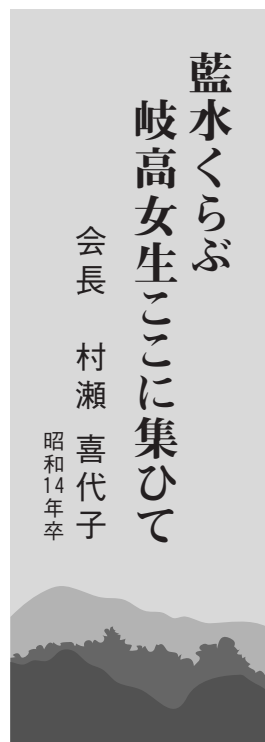


同窓会だより



藍水くらぶ 岐高女生ここに集ひて

会長 村瀬 喜代子
昭和14年生



平成二〇年の藍水くらぶ総会は、秋晴れの一日、岐阜都ホテルにおいて二二八名の出席を得て盛大に開催されました。物故者に対する黙禱、「姫小松」の斉唱、私の挨拶の後、ご来賓の岡本太一、岐阜高校同窓会長と平成二二年岐阜高校同窓会総会の運営委員の桐山さんと小石さんから、高齢者に暖かい挨拶をいただきました。

ご長寿会員のお祝いは、昭和十六年三月卒業の八五歳一人名の方々に贈呈され、お礼として、足立美代さんからの言葉と長原千鶴さんの独唱「千の風になつて」がありました。田代里江さんから会計報告で式の行事を終えました。懇親会は、山田一枝さんのご発声で乾杯をして始まり、例年のように、おしゃべりと食事で、



楽しいときをすごしました。余興の雲雀ヶ丘合唱団の合唱は、「スタバトマーテル」、「学生時代」、「美しく碧きドナウ」で美しいハーモニーに聞きほれました。最後に「岐阜高校歌」を斉唱し、再会を約束しました。出席者全員が後期高齢者ですので一期一会の集いに、若き日の想い出、女学校時代に、かえり楽しい時を過しました。

平成21年度
藍水くらぶ 総会のお知らせ
日時 平成21年10月2日(金)
場所 岐阜都ホテル
二一年は、藍水くらぶ発足五〇周年に当り記念すべき年になりますのでお誘い合わせてぜひ御出席下さい。なお岐阜駅、柳ヶ瀬までお迎えのバスを用意致します。

合唱などで卒業生交流

旧岐阜高等女学校「藍水くらぶ」が総会
岐阜市

旧岐阜高等女学校「藍水くらぶ」が総会
岐阜市 九十二歳を最高齢に二
（現岐阜高校）の卒業を懐かしみながら旧交
百二十八人が出席し
生有志でつくる団体を温めた。
「藍水くらぶ」の本年 同団体は、卒業生の
交流を深めようと毎
書連福光の岐阜都ホテ
年総会を開催。今年
は、卒業生の
村瀬喜代子代表が、
書や絵画などで活躍す
る卒業生らを紹介しな
がら「岐高女の知性と
教養を高めつつ、ゆっ
くりと一年分の数話を
楽しんでほしい」とあ
いさつ。前年度会計報
告を行った後、同団体
の有志でつくる雲雀ヶ
丘合唱団が「美しく青
きドナウ」など三曲を
披露。最後は校歌を全
員で合唱して締めくく
った。



「藍水くらぶ」総会であいさつする村瀬喜代子
代表（岐阜市福光、岐阜都ホテル）



在京岐高同窓会

会長 宮本 悠美子

昭和34年卒



在京岐高同窓会は創設以来ボランティア精神を持って七二年を迎えております。

今年は当番学年制度を導入して一〇年目になります。

毎年イベントには同窓生関係又は県関係の方をゲストとしてお迎えしておりますが、出演していただける方を探すのに大変苦勞致しております。平成二〇年度総会は、お陰様で七月一三日に二六七名の出席のもと盛大に開催され無事終了しましたことに感謝しております。

当日は御多忙な中を来賓として母校同窓会の岡本太一新会長・田村弘司校長からご祝辞をいただき大変嬉しく思っております。

今回、ゲストとしてお迎えしました二胡奏者として大活躍中の張浜（チャンピン）氏の演奏が実現しましたことは喜びでした。二胡の素晴らしい哀愁を帯びた音色によいしれ拍手がや

まずアンコールをお願いしました。又特別出演していただきましたお嬢様日妮（ヒナ）ちゃんとの親子共演も皆様大感動でした。

二胡の歴史・伝統を学び親しむことが出来ました。

当番学年（四二年卒・五二年卒）の頑張りに大感謝です。これも先輩方の御指導・御協力・又各学年の皆様と同窓会への思いが責任感・団結力につながっているのだと思います。これこそ本会則第一条「会員相互の交誼を厚くすることを目的とする」を忘れることなく、ますます発展していきますようお願いしております。

今年二二年度は、平成一六年岐高卒・東京芸術大学音楽学部邦楽科を三月に卒業します坪井一将（杵屋勝龜哉）様に、師匠であります杵屋勝哉（長良高卒・東京芸術大学音楽学部邦楽科卒）先生と御一緒に



二胡演奏（親子共演）

共演していただくことになっております。三味線の世界を学び楽しみたいと思っております。当番学年（四三年卒・五三年卒）の皆様は昨年九月から準備に入り、六月二八日の総会に向けて頑張っております。岐阜の皆様のご出席をお待ち致しております。



校歌、応援歌斉唱などで盛り上がります。

平成21年度
在京岐高総会のお知らせ
日時 平成21年6月28日(日)
11時～14時30分
場所 ANAインターコンチネンタルホテル東京